

雪がた

— 豊科病院だより —



豊科病院広報誌

平成29年 1月 1日 発行

発行者 豊科病院広報文化委員会
〒399-8205

長野県安曇野市豊科5777-1

URL <http://www.shironishi.or.jp/>

豊科病院の理念

自他を問わず人間を愛し、慈しむ心を礎に、病める人、障害を持つ人、悩める人に常に自分の家族に接するように優しく接し、最良の医療・福祉サービスを提供し、地域の人々の要求及び個別的な要求にも応え、地域で人々が快適に生活できるような支援を行う。

菊の日

お一人に感謝状

当法人には、6月の「バラの日」と11月の「菊の日」という2つの式典があります。「バラの日」は、本広報誌にも度々掲載しておりますが、永年勤続者を表彰する式典です。一方、「菊の日」は、病院の職員に限らず、当法人に貢献寄与された方々を表彰する式典です。

その「菊の日」が11月22日に開催され、2名の方に表彰状が贈られました。

お一人目は丸山千里さん。丸山さんは、豊科病院の「バラの日」のため

に30年以上に渡り、毎年たくさんの方々にバラを提供下さいました。お一人目は、岡本綾子さん。岡本さんは、ご自身が描かれたたくさんさんの絵画を、豊科病院の1階ホールに定期的に展示して下さいました。式では関理事長 総長より職員を代表しての謝辞と、お一人へ記念品が贈呈されました。

なお、11月11日の当法人の創立記念日に開催された「スポーツ大会」法人内の全事業所が参加の表彰も合わせて行われました。



岡本さん



丸山さん

防火防災訓練

11月9日、豊科消防署員の方々の立会いのもと、本年度2回目の防火防災訓練が行われました。

① 避難訓練

食事療養部からの火災発生を想定し、初期消火訓練と患者さんを含む病院全体での避難訓練 避難者数：105名を実施しました。



② 消火器使用訓練

新入職員を中心に消火器の使用訓練が行われ、基本的な使用方法や消火器に関する基礎知識を学びました。消防署の方から、天きな声で火事の発生を伝え、消火器を使用する。消火器は13秒程度しか放射しないので、火元に回りこみながら消火することが大事」と、指導していただきました。

③ 避難器具使用訓練

2階の病棟の屋外に設置されている避難はしごの使用訓練を、(株)ニッタンさんのご指導を受けながら行いました。体験した職員は、金属製のはしごだったことと、2階からの避難なので、自重で自動で緩降する「オリロー」のようにたためらうことなく降り始めることができました。しかし、はしごが不安定で揺れたり、ねじれたりする構造なので、途中から急に難しくなりました。オリローの方が迅速に降下できますね。」と語っていました。



④ 消火栓使用訓練

当院1階に設置されている消火栓による放水訓練を行いました。注意点は以下のとおりです。①消火栓の上部にある火災報知機のボタンを押さなければ、バルブを回しても放水できない。②放水を始める際は、放水ノズルをしっかり持ったことを確認し、バルブを開く。③放水を行う者は、ノズルを手だけで持つと水圧でノズルが暴れるため、足を踏ん張り腰を入れて持ち、放水する。

昨年末には、安曇野市から比較的近い新潟県糸魚川市で、近年で最も大規模な火災がありました。強風によつて延焼したようです。が、我々も「想定外」を想定して、防災に努めたいものです。



精神科デイケア

ショートケアを 始めました！

当院の精神科デイケアでは、11月よりショートケアが認可されました。今までデイケアでは、1日6時間の参加しか認められていませんでしたが、これからは、1日3時間以上の参加が可能となりました。退院後間もない方や、作業所に通っている方、他科受診をしている方等にも利用しやすい体制となりました。

ショートケアの認可に伴い、生活技能訓練 Social Skills Training...: SST)や、メタ認知トレーニングなど、より就労や社会生活に関連した技能を学習する場も整えました。

今後、精神科デイケアでは、利用される皆様のニーズに合った活動を提供していきたいと思えます。興味のある方は、主治医又は精神科デイケアスタッフにお問合せ下さい。



心の癒し (31)

ながの銀嶺国体

2017年冬季国体は地元、長野県で開催されます。調べてみると長野県で冬季国体が開催されるのは2017年で、なんと16度目！

まずは日本体育協会のホームページを参考にして、過去に長野県で開催された冬季国体を一覧にしてみます。

- 第3回 (1948年)
- 第4回 (1949年)
- 第9回 (1954年)
- 第10回 (1955年)
- 第15回 (1960年)
- 第16回 (1961年)
- 第20回 (1965年)
- 第23回 (1968年)
- 第25回 (1970年)
- 第33回 (1978年)
- 第42回 (1987年)
- 第46回 (1991年)



- 第54回 (1999年)
- 第56回 (2001年)
- 第63回 (2008年)



歴史を感じますね。最後に行われた国体が2008年ということとは、2017年の国体は9年ぶり、ということになるわけですね。

国体本大会は全国を東日本、中日本、西日本の3地区に分け、さらにそれぞれの地域を東日本：北海道東北関東中国四国九州3ブロックに分け、輪番で開かれるんだそうです。でも冬季国体の場合は地域が限定されるので、不規則かもしれないですね。

完全国体と呼ばれる本大会冬季大会同一の都道府県で開催されることもあれば、本大会とは別々の都道府県で開催されることもありますし、場合によっては複数の地域で開催されたことも過去にはあります。スピード感があってダイナミックな競技が多い冬国体は観るのが

楽しみなので、こうやって毎年開催されるといいなと思います。是非足を運んで会場で観戦してはいかがでしょうか。

●冬季大会会期

平成29年1月27日(金曜日) ~ 2月17日(金曜日)

エコキャップ集まる

当院は、平成21年度より「エコキャップ運動」を始め、現在もその運動を続けています。「エコキャップ運動」とは、ペットボトルのキャップを集めて再資源化したリ、そこで得た収益を世界の子どもたちへフクチンに代えて贈ったりする運動です。

今回は、集めたキャップをリサイクルセンターさんへ提出いたしましたので、単なるゴミで廃棄されることなく、再生プラスチック製品に生まれ変わり、公園のベンチや建築資材としても活用されます。

当院はこれまで、平成22年9月6日に115kg、続いて平成25年

5月17日に154kg、平成26年7月14日に73.5kg、平成27年11月9日に63.5kgのキャップを集め資源化してまいりました。そして今回は、12月5日に、41.7kg、約1万8千個(1個:232g計算)のキャップを、リサイクルセンターさんにお届けしました。

当院は今後も「エコキャップ運動」を続けていく予定です。これまで当院にキャップをお持ち下さり、ご協力いただいた皆様にお礼を申し上げます。



今回は41.7kg!

感染予防研修

12月21日と28

日の2日間、院内感染対策委員会が主催し、院内感染対策研修「吐物の処理」というテーマで職員研修会を開催しました。



写真の通り、実際に、粥を吐物に見立てて、床へ落とし、吐物の処理の手順や、吐物の処理後に感染予防着から感染が拡散しないよう、予防着の扱いや脱ぐ順序も学びました。

精神科外来よりお知らせ

精神科外来は、当面の間、水曜日と土曜日は休診いたします。また、精神科を初めて受診される方の診察も休止しております。

「不明な点などございましたら、事務部へお気軽にお問い合わせください。」

「ご不便、ご迷惑をおかけいたしますが、よろしくお願い申し上げます。」

外来 医師担当表

平成29年 1月1日現在

曜日	月	火	水	木	金	土
精神科	なかざわ ちとお 中澤 知遠 医師	にしざと よしあき 西里 吉昭 医師	休 診	さとう あや 佐藤 彩 医師 ※診察時間 10:30~	なかざわ ちとお 中澤 知遠 医師	休 診
内科	いわさ たけひこ 岩浅 武彦 医師	休 診	休 診	まちだ りょうすけ 町田 良亮 医師 第1・3・5木曜日 にしざわ みちこ 西澤 理子 医師 第2・4木曜日	休 診	休 診

◎ 受付時間 午前 8:00~午前 12:00
◎ 診療時間 午前 9:00~終了まで

※ご不明な点等は、受付へご確認下さい。
お問い合わせ先 電話 0263-72-8400

※ 午後は全科**休診**となります。
※ 日曜・祝日は全科**休診**となります。



～・編集後記・～

豊科病院広報誌『雪がた』第46号をお届けしました。お読みになっていかがでしたか？冬場に圧倒的に多いノロウイルス、この冬も猛威を振るっているそうです。感染力が非常に強く、少量のウイルスで発症。症状は激しい嘔吐、下痢、腹痛、時に発熱です。予防としては手洗い、マスク着用などで、基本的なウイルス対策を実施し、感染を防ぎたいものです。

そして、あつという間に2017年「酉年」。ニワトリが新年に一番に鳴くトリであることから縁起が良く、行動力があり、積極的、親切で世話好きといった意味もあるそうです。干支の動物には縁起話があります。これも自分の中で意識して過ごすことで一年をより良く過ごすきっかけになるかもしれませんね。

※表題「雪がた」について 春から夏にかけて北アルプスでは様々な雪形が見られ、当院からは常念岳の常念坊や、蝶ヶ岳の蝶などの雪形を正面に望むことが出来ます。雪形が季節の変化に合わせて融けるように、患者様の病も融ける・・・表題にはそんな願いが込められています。また、表題の写真は当院屋上から撮影しました。